

Home. vol.3

— 本学で学び、社会で活躍する
卒業生の今を伝える

再び、KEIAI☆フェスタを楽しもう！
おかえりなさい！
ようこそホームカミングデーへ



Home. Vol.3 2018

本学で学び、社会で活躍する卒業生の今を伝える

2018年5月発行




千葉敬愛短期大学は数多くの優れた人材を輩出し、多くの卒業生が小学校、幼稚園や保育所などで活躍しています。また同級生、先輩や後輩とのつながりの深さも特徴といえます。本誌は、こうした本学のブランドや本学での学びを基本に卒業生が、今なお学び続ける姿をお伝えする目的で発行しました。受験生におかれましては、職場で活躍している卒業生のエピソードを通じてご自身の将来像を描いていただきたいと思います。一方、校友会会員の皆様におかれましては、大学卒業後の会員のご活躍ぶりをご覧いただき、同じ志を持つ仲間として意識共有を図るのはもちろんのこと、会員の皆様同士のつながりがより一層深まることを願っております。

～校友会の皆様へ～

本誌は、今後定期的に刊行する予定です。皆様の本誌への積極的なご参加を心よりお待ちしております。また、お気づきの点がありましたら、下記までお知らせください。

— 教育・保育の敬愛

 千葉敬愛短期大学

〒285-8567 千葉県佐倉市山王1-9
TEL: 043-486-7111 (代表) FAX: 043-486-2200

発行/千葉敬愛短期大学校友会

千葉敬愛短期大学校友会 HP

<http://www.chibakeiai.ac.jp/tkouyukai/>



Message

千葉敬愛短期大学 学長
明石 要一

「敬短」創立70周年に向けて

2020年、千葉敬愛短期大学は創立70周年を迎えます。人間であれば「古希」に当たります。本学の歴史は建学の精神である「敬天愛人」を根幹に、学生や教職員の日々の努力、そして多くの卒業生の皆様のご支援により長く受け継がれてきたものです。感謝申し上げます。

2018年より「70周年記念事業準備会」を発足させ、更なる発展への準備を始めました。記念行事のキーワードは「伝統の継承と変革」です。教育・保育に対するこれまで敬短が培ってきたものを継承しつつも、新たな時代の動向に応じた変革も必要です。多くの大学、短大が教育の質を問われている昨今、本学への信頼や期待に十分応えるためにも更なる改革や新しい教育への努力が重要です。

志の高い学生を受け入れ、人間力を高め、適切な支援のできる教育者・保育者に育て送り出さなければなりません。高大接続教育や卒業後のサポート、スキルアップを図るリカレント教育、地域との連携、卒業生との交流を通し、入学前から卒業後も「生付き合う敬短」を目指し、本学の教育をゆるぎないものにしていきます。卒業生の皆様には、これまでと同様、ご理解とご支援をお願い申し上げます。



Message

千葉敬愛短期大学
校友会会長
片山 喜久子

ブランドブックに寄せて

千葉敬愛短期大学校友会は、1992年に創設され、会員の親睦・交流を図るとともに、母校の諸行事に様々に関わりながら充実発展に寄与することを目的に活動を進めてきました。敬愛フェスタ、さつき祭り、ホームカミングデイ等での校友会の積極的な活動は、学生の皆様のみならず地域の方々にも知られるところですが、こうした活動を通して、本学の学生が生き生きと学業に専念し、目標に向かって努力されている姿を見てきました。さらにその学生に厳しくも温かく指導される先生方と強い絆で結ばれていることも本学の素晴らしいところですが、校友会は本学及び学生の活動を支援するとともに、会員相互の一層の交流を図ることを目指しています。

受験生の皆様には、是非本学に入学されて夢を叶えていただくとともに、校友会の仲間として人生を通して活動をしてまいります。

千葉敬愛短期大学のあゆみ

1921 (大正10年)
八日市場女学校創設



1926 (大正15年)
財団法人関東中学校創立



1950 (昭和25年)
千葉敬愛短期大学
教育科設置
(現：千葉県匝瑺市八日市場)



1952 (昭和27年)
法経科増設 (昭和44年)

1955 (昭和30年)
・教育科を初等教育科と改称
・保健体育教員養成所設置
(昭和48年)



1959 (昭和34年)
初等教育科移転
(現：千葉市稲毛区六川)



1962 (昭和37年)
初等教育科第二部増設
(昭和62年)



1969 (昭和44年)
千葉県教育委員会より委託研修生受け入れ(公立小学校教諭資格付与のため)

1973 (昭和48年)
千葉敬愛短期大学附属幼稚園開園
(現：千葉市美浜区高洲)

1987 (昭和62年)
初等教育科移転
(佐倉市山王の現在地)



1990 (平成2年)
千葉敬愛短期大学
国際教養科増設

1992 (平成4年)
図書館・特別教室棟、学生会館完成

1996 (平成8年)
情報教育研究所開設

1997 (平成9年)
国際教養科学生募集停止
(学部へ改組転換のため)



2000 (平成12年)
千葉敬愛短期大学創立50周年

2001 (平成13年)
保育士養成課程を開設
(現：千葉市稲毛区六川)

2009 (平成21年)
千葉敬愛短期大学
総合子ども学研究所周設

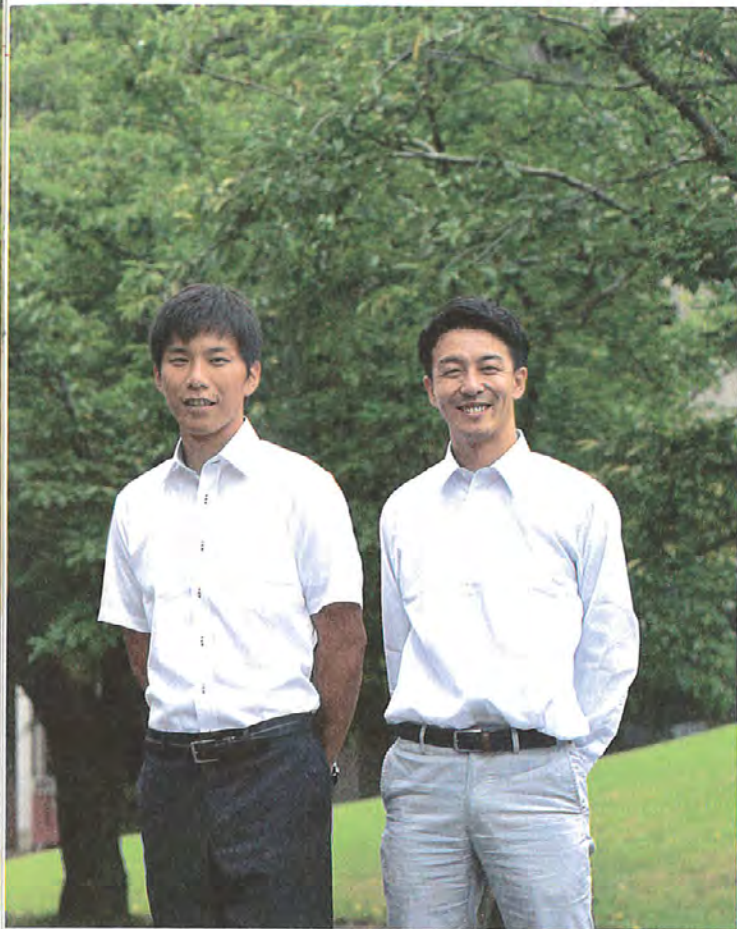
2010 (平成22年)
千葉敬愛短期大学創立60周年

2014 (平成26年)
初等教育科を現代子ども学科と改称
初等教育コース、保育コースを
設置

2020
千葉敬愛短期大学70周年

千葉敬愛短大でつながった縁 仲間としてライバルとして切磋琢磨しています

2017年7月23日、第1回ホームカミングデイが開催されました。教育や保育の現場で活躍する3名の卒業生をお招きし、学生時代の思い出や現在の仕事について語っていただきました。講演の様子をレポートします。



Profile

かんとう たくや
菅藤 拓也さん

2002年卒業
千葉敬愛短期大学附属幼稚園勤務

あんぢょう たもつ
安藤 保さん

2005年卒業
千葉市内の小学校勤務

さかしらりょう
坂下 諒さん

2012年卒業
千葉市内の小学校勤務



同窓生のつながりで 公私ともに親しくなった

卒業生の講演は大野雄子教授との対談形式で進められました。最初に登壇したのは、千葉市の小学校に勤務する安藤保さんと坂下諒さん。坂下諒さん

は校友会副会長です。二人は千葉県教育研究会で知り合い、同窓生とわかり意気投合。同じ小学校に勤務したことはありませんが、ともに体育指導部会に所属し、研修などに参加して研さんを積んでいるだけでなく、プライベートでも親しくしているそうです。

「サーフィンやスノーボードなども一緒に楽しんでいきます。公私ともに仲良く行動しています」(坂下さん)。
「千葉敬愛短大でつながって、プライベートでも関わられることをうれしく思っています」(安藤さん)。

**子どもとゼロ距離で
関わるのが喜び**

現在は6年生を担当しているという二人。
「その日その日で、子どもたちが成長しているのがわかる。自分もまた成長しています」(安藤さん)。
「子どもとゼロ距離で関わっているの
で、小さな成長でも見つけることができ
きたときにはやりがいを感じます」(坂
下さん)。

在学中はどちらもクラス長と学生会
長を務め、パワフルに過ごしていました。
「クラスをまとめるのは大変でしたが、
そのときの経験が今のクラス運営にも

おかえりなさい！ 仲間や恩師に会いに母校に帰ろう

学生一人一人の入学から卒業までを支えたい——そんな思いで、2017年からスタートしたホームカミングディ。同窓生と恩師や先輩、後輩との交流を深めるとともに、これからの教育や保育現場、社会福祉の現場を考え、スキルアップの場とすることを目的として開催しました。教育や保育に携わる卒業生が、悩んだり、壁にぶつかったりしたときに、気軽に母校に戻って来ることのできるようなホームカミングディに育てていきたいと考えています。

2017年第1回ホームカミングディプログラム

学長挨拶 明石要一学長

校友会会長挨拶 片山喜久子会長

卒業生による講演

「小学校教諭としての仲間」 安藤保さん、坂下諒さん

「保育者として伝えたいこと」 菅藤拓也さん

語らいの場



開催に当たり、明石学長が「仕事に悩みを抱える、特に若い卒業生に対する支援の場を校友会と連携しながらつくっていききたい」と挨拶しました。続いて片山校友会会長が、会場に向けて「卒業生の皆さん、お帰りなさい」と呼びかけました。帰る母校のある大切さを伝えられ、参加者の皆さんは文字通り「ホームカミング」を実感したようです。

講演後は会場を移し、語らいの場が設けられました。KEIAI☆フェスタや体育祭の映像を見ながら、学生時代の思い出話で大いに盛り上がりました。また、在校生が先輩からアドバイスをを受けたり、卒業生が恩師に仕事の相談をしたりする姿が見られました。ホームに帰った安心感からか、参加者の皆さんが終始なごやかな表情だったのが印象的でした。



男性保育者としての 強みを生かして保育する

次いで登壇したのは、千葉敬愛短期大学附属幼稚園に勤務する菅藤拓也さん。園で唯一の男性保育者です。男性ならではの強みは、「子どもとダイナミックな遊びができること」。子どもから「先生のお仕事は何？」と聞かれて「先生の仕事は遊ぶことだよ」と答えたというエピソードに、会場が温かな笑いに包まれました。菅藤さんは、家族の形が多様化し父親とのかかわりが希薄な子どももいる中、男性保育者の存在は大きいと自信を見せます。自然の好きな菅藤さんの影響で子どもたちも虫などへの興味を持つているそうです。

「面白いのは、子どもが自然の中で何かを発見して『うわっ！』と表情を輝かせたとき。そんな瞬間を見られるのは保育者だからこそです」。その反面、男性更衣室がなかったり、同僚の会話に入りにくかったりという現



状もあると指摘します。保育者を指す男子学生からも、アルバイト先の保育所で、同様の悩みを持っているという発言があり、会場からは、男性保育者のために労働環境の整備は緊急の課題だという意見が出ました。最後に大野教授は、菅藤さんが教育実習で学生たちを育ててくれていることに感謝して、対談を締めくくりました。

生きています。同級生はライブルであり仲間でもあります。学生時代だけでつながりが終わるわけではありません。坂下さんとの出合いがあつたように、卒業してから新しい仲間ができることもある。すべてが人とのつながりから生まれるのだと思います(安藤さん)。「経験したことは必ず生きてくるので、後悔のないよう積極的に行事や人と関わってたくさん思い出をつくってください(坂下さん)と、在校生にエールを送りました。



安藤保さん

できることはすべてやった
やれる環境があったことに感謝

入学して女子が多いのに驚きましたが、「なににも挑戦してみよう」と思い、クラス長と学生会長をやりました。2年間しかないのだから、できることはすべてやろうと決意したのです。学生会には男子学生を募り、半数以上を男子が占めたこともあり、活発に活動できました。やろうと思ったことができる環境があったことに感謝しています。

また何かをやろうとしたときに、傍らにはいつも仲間がいてくれました。同じ志を持った仲間が集まっていることは、大変心強かったです。学生会活動で、どうしたら皆が楽しめるかを話し合っただけで計画を立て、実行するという過程は、現在も子どもができることを考えて計画を立てるといふ仕事の過程にも生かされています。子どもと関わっていると、毎日あつという間に時間が過ぎていきます。毎日が楽しくて、教員になって本当によかったと思っています。



菅藤拓也さん

男女差を意識することなく
黒子として活動を支えました

私は入学するまでピアノを学んだことがありませんでした。先生に「1日30分、ピアノを触りなさい」と言われ、毎日ピアノ練習室にこもっていたのを覚えています。クラス制だったこともあり、仲間意識を持ってたことが千葉敬愛短大で学んでもっともよかったこと。表舞台に立つよりも、縁の下で働く方が性に合っているので、学生会副会長としてフェスタ実行委員などを務めました。

学生時代は男女差を特に意識することなく、さまざまな行事に思うように取り組むことができたのですが、現在の職場にはロールモデルとなる人が女性しかいないので、目標とする保育者像に迷いが生じた時期もありました。これに対しては、職場に限定せず広く多様な足場をつくることで乗り越えました。今、保育者になってはじめて受け持った子どもたちが大学生になりました。成長して「先生」と訪ねて来てくれると、保育者冥利に尽きます。



坂下諒さん

公私にわたり敬短尽くし
敬愛魂を貫いています

「皆さんは、千葉敬愛短大が好きですか？ 私は大好きです」——卒業式で答辞を読んだときの言葉です。今でもその気持ちはまったく変わっていません。校友会にも関わっていますし、同級生と結婚したので、就職も私生活も千葉敬愛短大にお世話になっています。

入学式のと看、2年生に困まれて「ジャンボ」を見たときには「スゴい」と焦りましたが、自分が2年生になるとまったく同じことをしていました。学校現場でも「敬愛魂」を貫き、千葉敬愛短大の良いところは、積極的に子どもたちに伝えるようにしています。教員になってからはずっと高学年を受け持つており、宿泊学習のときに「ジャンボ」を踊っているの、教え子たちはみんな「ジャンボ」が踊れるんですよ。

教育者は、「ここで完成した」と満足したら終わりだと思います。教育にゴールはありません。一生学び続けていくつもりです。



小平愛さん 初等教育コース2年(2017年現在)

教師として母校に戻り在校生に経験を伝えたい

講演で、坂下先生がおっしゃった「ゼロ距離」という言葉が印象に残りました。子どもと同じ視点に立って関わることの大切さを改めて認識しました。教育の現場に立っている先輩の話聞く機会は少ないので、ホームカミングデイの講演で教員のやりがいや大変なことなど生の声を聞いて、多くの収穫がありました。懇談の場でも、教員採用試験の内容や、在学中にやっていた方

がよいことなどのアドバイスをいただくことができ、大変参考になりました。将来は、子どもが一人で悩みを抱えることなく、子どもから信頼され相談されるような、“子どもが帰って来られる”存在になりたい。私にとって、千葉敬愛短大はまさにそんな存在です。そして私自身も成長して母校に帰り、今度は私が在學生に経験を伝えたいと思います。

講演を聞いた在校生から

普段と違う世代の人と交わると 視野も人間の幅も広がります

2017年10月21、22日に行われたKEIAI☆フェスタ。台風が近づくあいにくの天気でしたが、室内イベントは熱気がいっぱい。校友会企画のストラックアウトには、たくさんのお子どもたちが列をつくり、一投ごとに歓声が上がっていました。受付やボール渡しで大忙しのお二人にお話を伺いました。



若い卒業生の協力で 活気づいた校友会企画

大塚 私の学生時代は敬愛大学と合同で学園祭を開催していましたが、現在はほとんどの学生がフェスタの実行委員として関わっていますね。

三橋 はい、チームワーク抜群ですよ。

大塚 私の息子も千葉敬愛短大の卒業生なのですが、クラスで活動したり、先輩が後輩を育てたりと、組織を動かす経験ができる環境で育っているのが、教員になっても即戦力として活躍できると実感しています。

三橋 そうですね。私も係の活動をしましたが、1年次と2年次で活動に対する意識はガラリと変わって、自分でも成長したなと思いました。

大塚 私と三橋さんとは親子ほど年が違いますが、校友会企画には三橋さんたちのような若い先輩たちが参加してくださっているの、子どもたちも喜んでくれています。校友会の若い副会長が声をかけてくれて、三橋さんたちが協力してくれるようになり活気が出ました。うれしく思っています。

子どもをよく観察して 求めていることを理解する

大塚 幼稚園や保育所に勤務している卒業生にとっては、フェスタと勤務先の運動会の日程が重なることも多く、参加したくても参加しづらい状況がありますね。

三橋 私の勤務する幼稚園も先週が運動会でした。週末は忙しいですが、今日はいつも接しているのと違う年齢層の子どもたちと触れ合うことができて楽しかったです。大塚 教員の労働環境も決して良いとは言

KEIAI☆フェスタ 校友会企画 ストラックアウト



KEIAI☆フェスタの校友会企画として10年ほど前にはじまり、今では名物企画に。当初は校友会事務局が中心となって行っていましたが、近年若い卒業生が協力するようになり、さらに人気を博しています。ピンゴ賞、パーフェクト賞を用意して、学生たちの活動支援をしています。パーフェクトを達成するのは年に数人。一人も出ない年もあるのだとか。

えませんが、それでも母校に来て活動すると気持ち切り替わって、来週からまたがんばろうと思えますね。私は教員生活36年になります。学生時代から50年学校に通い続けていることになりましたが、普段と違う空気に触れ、違う世代の人と会うことで、人としての幅を広げることができていると感じます。校友会活動でもたくさん学びがあります。ぜひ若い卒業生も校友会活動に参加してほしいと思っています。

三橋 的に当てられなくて悔しそうな子に、スタッフが当ててあげて喜び子どももいれば、そうでもない子どももいます。子どもはみんな同じではないんだなと思いますね。先輩方の動き方や子どもへの接し方などを見て、学ぶことが多いです。

大塚 ストラックアウトに来てくれる子どもたちは、私たちにっては初対面。どんな行動するのかわかりません。だからその子の様子をよく見て、そばに寄り添って褒めたり、励ましたりすることは大切ですね。学生時代、「教育は人なり」と先生から教えられ、相手の立場に立つてものごとを見ることを学びました。私の教員生活も終盤に差しかかっていますが、子どもをよく観察

して、求めていることを理解することの大切さを改めて感じています。

三橋 本当にそうですね。今日は、母校に戻って先輩の話を聞けるよい機会になりました。

大塚 恩師や仲間と会って話ができる場として、今年からホームカミングデイもはじまりました。卒業して数年経った卒業生も機会をとらえて母校に帰って来てもらって、ブラッシュアップしてほしいですね。

三橋 ぜひまた相談に乗ってください！

Portrait

おつか よしよき
大塚 孔久さん

1982年卒業

大網白里市内の小学校勤務
校友会副会長



みつほし
三橋 このみさん

2013年卒業

成田市内の幼稚園勤務

